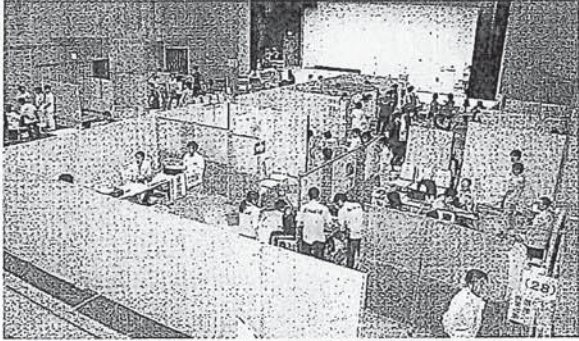


日本オープンイノベーション大賞

弘大COI 総理大臣賞

「寿命革命」取り組み評価



弘大COIの核となっている岩木健康増進プロジェクトの住民健診＝2018年5月

内閣府は5日、産学官の連携による技術革新に向けた取り組みを表彰する「日本オープンイノベーション大賞」の受賞者を発表した。最高賞の初代内閣総理大臣賞には、「多項目健康ビッグデータで『寿命革命』を実現する健康未来イノベーションプロジェクト」を展開する弘前大学COI（センター・オープンイノベーション）の研究チームが選ばれた。産学官民が連携して健康づくりと地域活性化を同時に進め、健康長寿社会を目指す取り組みが高く評価された。

（成田真由美）

同賞は内閣府が過去15回にわたり実施してきた「産学官連携功労者表彰」を、日本のオープンイノベーションをさらに推進させるため、今年度から名称を改めた。第1回となる今回は全国から212件の応募が寄せられた。最高賞の取り組み

は、弘大や花王、マルマンコンピュータ等から、健康長寿社会の実現を目指している。2005年からスタートした「岩木健康増進プロジェクト」を軸に、住民健診で得られたゲノムから生活習慣まで2000項目に及ぶ検査結果を基にした健康ビッグデータをオープンにしていることが最大の特徴。50以上の企業・研究機関が健康経営認定制度創設や健康増進リーダー・サポーター育成など、

科や東京大学、京都大学の人工知能（AI）研究者、生物統計の専門家、参加企業が分岐、疾患予測モデルを開発し、関連事業を展開してきた。

啓発型健診など自ら健康づくりを推進しやすいつけがらを推進し、ヘルスケアビジネスを生み出すシステム構築も進め、同時に、県の健康経営認定制度創設や健康増進リーダー・サポーター育成など、

産学官民の連携を生かし、社会環境整備も進めている。

男性の平均寿命の伸び率は17年に全国3位を記録し短命県の返上に向けて着実に前進している。健康ビッグデータをオープンにし、予兆・予防法を開発するスキーム形成に加え、経済効果のみならず、県民の健康に対する意識向上にも大きく貢献している点が評価された。

弘大COI研究推進機構の村下公一教授は「健康医療分野でのオープンイノベーションの先駆的モデルとして評価されたことを大変光榮に思う。短命県返上寿命延伸と地域経済活性化を同時に目指す本モデルの完成に向けて、産学官民一体の取り組みをさらに加速させていくと述べた。

弘大大学院医学研究科の中路重之特任教授は「青森県の産学官民の皆さんの短命県返上活動にビッグなエネルギーを頂いた。短命県返上には時間がかかり先には長い、（受賞により）まだまだ頑張らうという思いを起こさせてくれるようだ。大変うれしく、励みになる」と喜びを語った。

中路特任教授らは3月5日に東京都内で開かれる表彰式に出席する予定。